

第IV章 調査の記録（遺構と遺物）

今回の調査は、億首川下流域周辺に存在する古墓群を対象に悉皆分布調査を実施した。対象範囲は、過去調査をおこなった「ミーチェ」の墓域や「ナグスク」の墓域も含まれる広い範囲であった。

調査の結果、露頭する琉球石灰岩の縁辺部や丘陵地一帯からは、古墓210基（岩陰墓29基、岩陰石積墓11基、岩陰掘込墓11基、掘込墓32基、仮墓6基、不明墓121基）、石積み8基、不明遺構4基、道跡12箇所、拝所2箇所（名称不明）など、計222基と14箇所（合計236基）の遺構が確認された（図4.1）。古墓のなかには、岩盤等の崩落等により墓室内の形態情報が断片である推測墓やコンクリートなど新しい時期に改築された古墓もあった。以下、悉皆分布調査で確認された各遺構について、調査地区（小字）ごとに区分けし、更に遺構の分布状況から番号を付した小地区に細分して詳解する。

第1節 甘喜原地区の遺構

甘喜原地区は、並里集落から北東方に位置し、億首川下流域の右岸に所在する。1961年作成の地籍図では畑地として表記されている。現在では畑地としての利用はなく緑地になっている。

予備調査は、琉球石灰岩の丘陵地縁辺部から億首川が流れる低地部にかけて実施した。確認された遺構は、古墓12基（岩陰墓2基・岩陰掘込墓1基・仮墓1基・不明墓8基）、石積み2基、道跡1箇所、拝所1箇所であり、合計14基と2箇所を数える。平成20年度の埋蔵文化財予備調査^{※1}では、A01号墓（岩陰掘込墓）が確認されている。以下、甘喜原地区の遺構分布について旧国道329号を境に①・②の小地区に分けて詳解する（図4.3・図4.4）。

①地区 甘喜原地区の西側は、琉球石灰岩丘陵の急斜面上部に位置する。標高30～35m地点から、A01～04号墓・A14号遺構などを確認。古墓の分類は、A02号墓（岩陰墓）、A01号墓（岩陰掘込墓）、A03号墓（不明墓）、A04号墓（仮墓）である。また、A14号遺構は、畑地跡（段々畑）の野面積みの石積みである（図4.5）。

②地区 甘喜原地区の東側は、琉球石灰岩丘陵の急斜面下部に位置する。標高8～22m地点から、A



図4.3. 甘喜原地区 遺構範囲図



写真4.1. 甘喜原地区遠景（東より）

05～A12号墓、A13・A15・A16号遺構などを確認。古墓の分類は、A07号墓（岩陰墓）とA05・A06・A8～A12号墓（不明墓）である。また、A15号遺構（石積み）とA16号遺構（道跡）は斜面地で確認。A13号遺構（拝所）は、「コ」の字に配石した拝所であった。地区内では、窪地や掘込みのような跡も数箇所確認できたが、岩盤の崩落や土砂等の堆積が著しく古墓として分類ができない箇所もあった。以下、甘喜原地区で記録したA01号墓・A04号墓について報告する。

※1 金武町教育委員会編『町内埋蔵文化財予備調査報告書—億首川周辺（平成18～20年度）』（金武町の歴史と文化 第4集）2010年

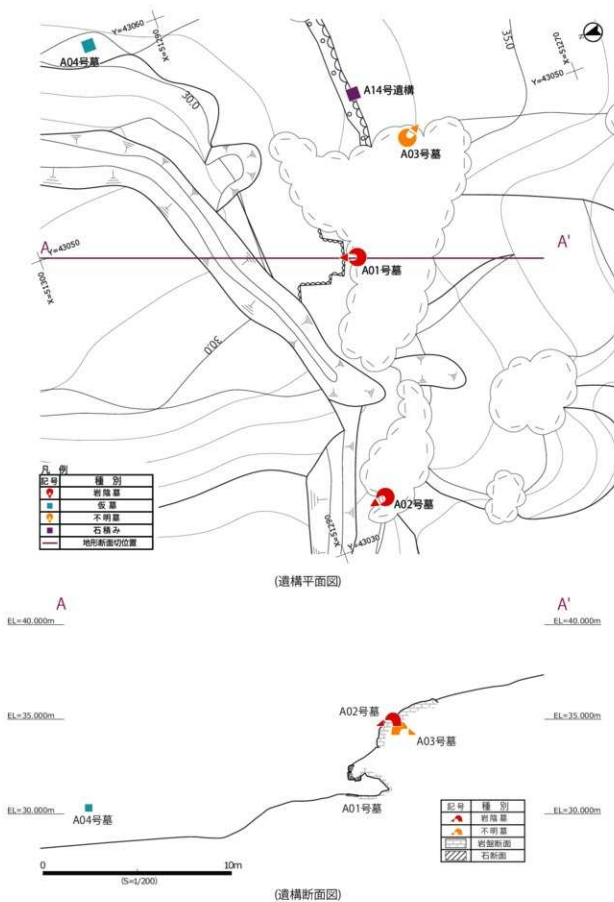


図4.5. 甘粛原地区 (①地区) 遺構平面図・断面図及び垂直見透遺構分布図

A01号墓

A01号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近（標高約31m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。周辺には段々畑の跡が地形に沿って広がっていた。

当遺構は、石灰岩の斜面窪地を利用して墓室を構築した岩陰掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓の前面部は多角形に加工した石灰石を積み上げて、墓口にはシミイシ（門柱）、ジョウカブイ（門被）の切石から構成されている。また、積み上げた石と石の隙間には漆喰が確認できた。墓口に倒れていた。屋根部は前方向へ緩やかに傾斜した石造りで「平葺墓」の平面形状を呈しており屋根の縁にあたる岩盤部分はコの字状に削られていた。墓室内の側壁は地形の凹み箇所に石を積み、天井までの高さは1.2mと低い造りであった。墓室床面は幅2.

4m、奥行1.7mを測り、比較的広い空間ではあったが残存状態が悪く、蔵骨器を設置する棚などは確認できていない。また、床面には、墓の構造とは別に不定形な堅穴（一辺が約1.7m、深さ0.9mほど）が掘り込まれていた。戦時中の避難壕として利用された可能性も示唆されるが詳細について不明の穴であった。墓正面のスティイシ（袖石）は左右に一段ずつ造られている。右側は石灰岩の切石や無加工の石を積み上げ、左側は岩盤の削り出しと石積みから構成される。空墓のため遺骨などは確認されていない。また、有頸甕形厨子甕が割れた状態で袖石部に廃棄されていた。

当遺構の築造年代観については情報が少ないため不明である。悉皆分布調査では遺構周辺にA02号墓、A03号墓、A04号墓、A14号遺構が確認されている。

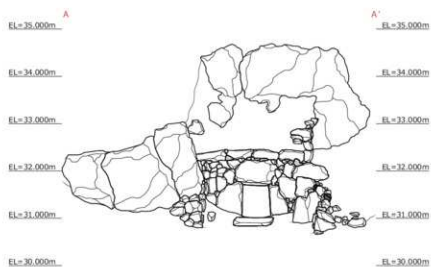
表4.1. A01号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰掘込墓	古墓の位置（グリッド）	V23
立地	露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近	墓口の向き	北東
規模	(墓口) 幅0.60m/高さ0.80m (墓室) 幅2.40m/高さ1.20m/奥行1.60m (墓庭) 幅2.40m/長さ3.10m		
遺物	(墓室内) ー (墓室外) 有頸甕形厨子、蓋		

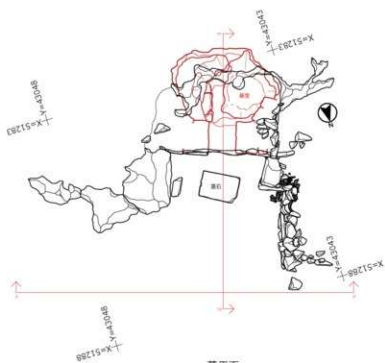


写真4.2. A01号墓（1）

013. A01号墓 近景
014. A01号墓 上部岩盤



墓正面（立面図）



墓平面



右断面見透図 (B-B')

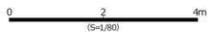


図4.6. A01号墓（正面・平面・断面図各種）



写真4.3. A01号墓（2）

015. A01号墓 天井部側面
016. A01号墓 墓室内

A04号墓

A04号墓は、琉球石灰岩台地の縁辺部（標高約30m）に位置し、億首川を見下ろすことができる場所に立地する。当遺構は、コンクリートブロックを材料に造られた比較的新しい仮墓であるが破棄された状態であったため詳細な形状は不明。但し、墓の基礎にあたる部

分はわずかに形状を留めていたため墓口の位置と方向は確認することができた。空き墓のため遺骨や臓骨器などの遺物は確認できていない。当遺構から南西方向に隣接するようにA01号墓が立地していることから両墓の関係性が窺える。

表4.2. A04号墓 遺構観察表

古墓の分類	仮墓	古墓の位置（グリッド）	V23
立地	露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部	墓口の向き	北西
規模	(墓口) 幅0.30m/高さ0.05m (墓本体) 幅0.90m/高さ0.50m/奥行0.70m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) ー	(墓室外) ー	



写真4.4. A04号墓

017. A04号墓 遠景
018. A04号墓 近景

第2節 宮城原地区の遺構

宮城原地区は、並里集落から東方に位置し、億首川下流域の右岸に所在する。琉球石灰岩で構成される段丘地形が発達した場所であり、約90mにおよぶ切り立った岩壁が東西方向に続く。また、「ナーグスク（古地名）」[※]と呼ばれる墓域があり、現在は、町の霊園（宮城原霊園）として利用されている。

予備調査は、琉球石灰岩の台地縁辺部から低地部にかけて実施した。確認された遺構は、古墓87基（岩陰墓10基・岩陰石積墓4基・掘込墓9基・岩陰掘込墓6基・仮墓2基・不明墓56基）、石積み2基、不明遺構2基、道跡3箇所、拝所1箇所、合計91基と4箇所を数える。以下、宮城原地区の遺構分布について調査地区を北方から南方に①～⑥の小地区に分けて詳解する（図4.7・図4.8）。

①地区 宮城原地区の北端は、琉球石灰岩が分布する丘陵斜面および崖地に位置する。標高9～34m地点から、M01～M19号墓・M89号遺構を確認。古墓の分類は、M04・M08・M10・M12・M13・M16号墓（岩陰墓）、M01・M02・M03・M05・M06・M07・M09・M11・M14・M15・M17・M18・M19号墓（不明墓）である。また、M89号遺構（石積み）は丘陵斜面の中腹に「コ」の字に配石されていた。その周辺では磁器と香炉の破片を採取した。

②地区 宮城原地区の中央部から北側は、琉球石灰岩が分布する丘陵斜面および崖地に位置する。標高7～16m地点から、M20～M29号墓を確認。古墓の分類は、M24号墓（岩陰掘込墓）、M27号墓（掘込墓）、M20～M23・M25・M26・M28・M29号墓（不明墓）である。他、遺構等は確認できていない（図4.9）。

③地区 宮城原地区の中央部は、琉球石灰岩が分布する丘陵斜面の谷地に位置する。標高6～17m地点からは、M31～M51号墓、標高28～29m地点からは、M30号墓、M88号遺構を確認。古墓の分類は、M39・M41・M42号墓（岩陰掘込墓）、M43号墓（岩陰石積墓）、M34・M35・M38・M40・M44・M47・M50号墓（掘込墓）、M30号墓（仮墓）、M31・M32・M33・M36・M37・M45・M46・M48・M49・M51号墓（不明墓）である。また、M88号遺構は拝所とみる。他、遺構等は確認で

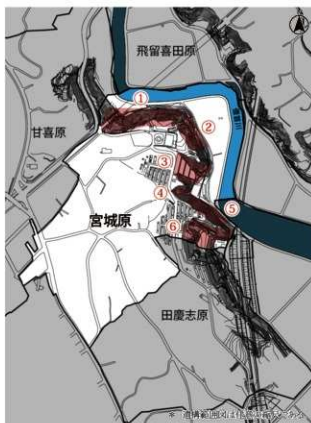


図4.7. 宮城原地区 遺構範囲図



写真4.5. 宮城原地区遠景（東より）

きていない（図4.10）。

④地区 宮城原地区の中央部から南下は、琉球石灰岩が分布する丘陵斜面の谷地に位置する。標高18～22m地点から、M52～M57号墓、M90号遺構を確認。古墓の分類は、M53・M54号墓（岩陰掘込墓）、M56号墓（仮墓）、M52・M55・M57号墓（不明墓）である。また、M90号遺構（石積み）は谷地の高い場所に設けられていた。

⑤地区 宮城原地区の南東側は、琉球石灰岩が分布する丘陵斜面に位置する。標高6～23m地点から、

※1 金武区誌編集委員会編『金武区誌 戦前編』（上巻）1994年
並里区誌編集委員会編『並里区誌 戦前編』1998年

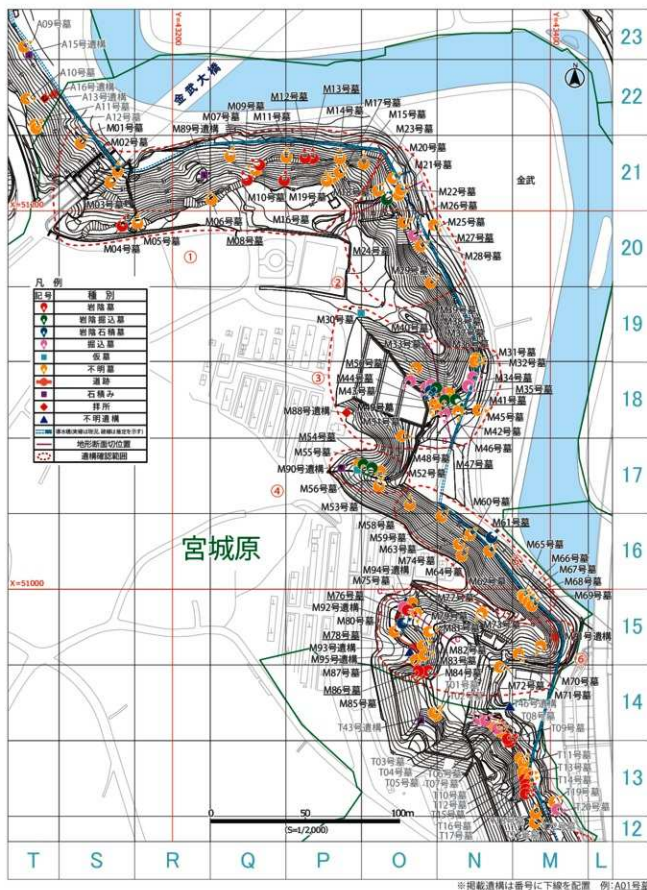


図4.8. 宮城原地区 遺構位置図

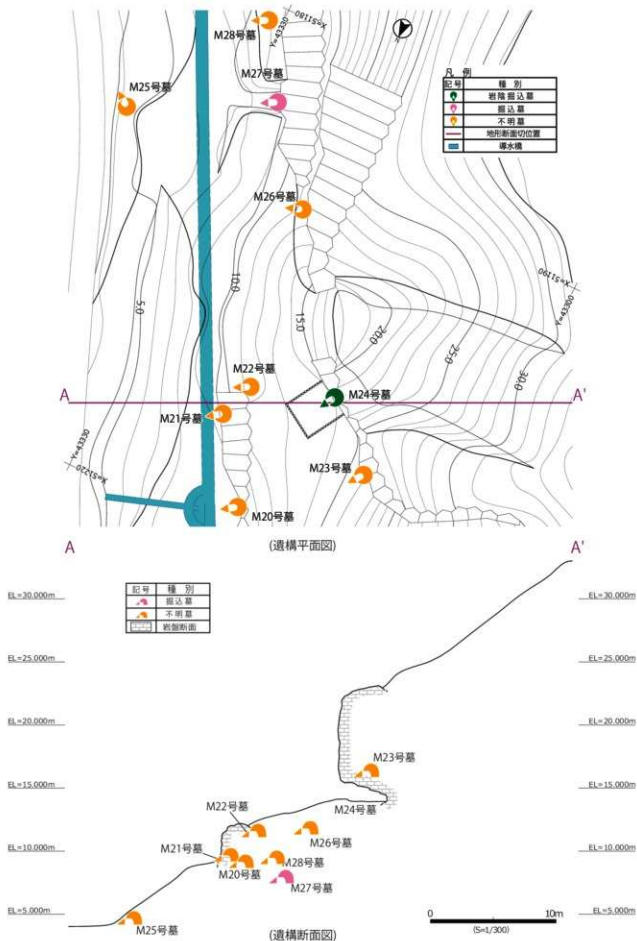
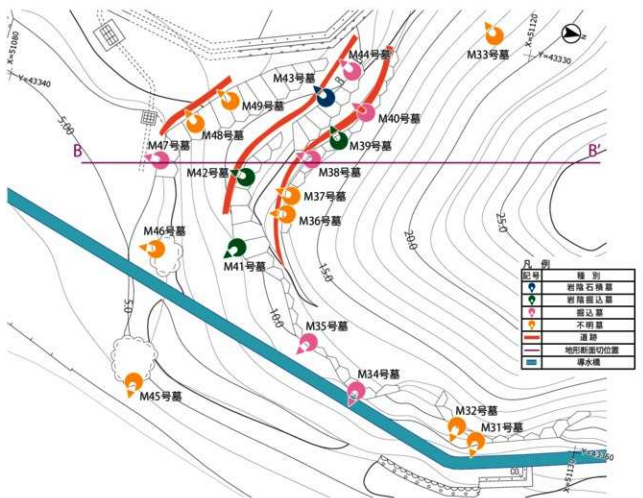
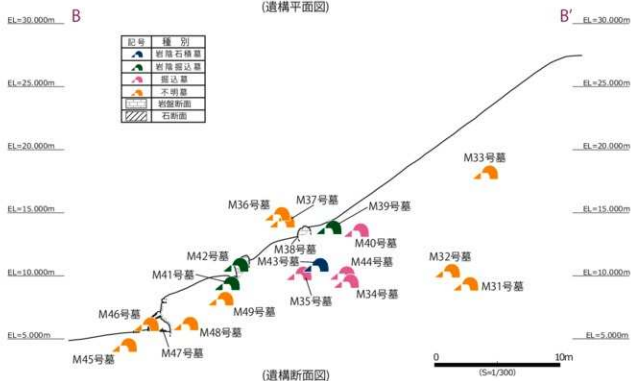


図4.9. 宮城原地区（②地区）遺構平面図・断面図及び垂直見透遺構分布図（1）



(遺構平面図)



(遺構断面図)

図4.10. 宮城原地区 (③地区) 遺構平面図・断面図及び垂直見透遺構分布図 (2)

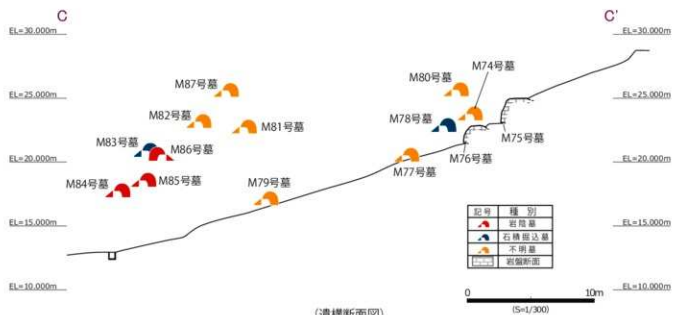
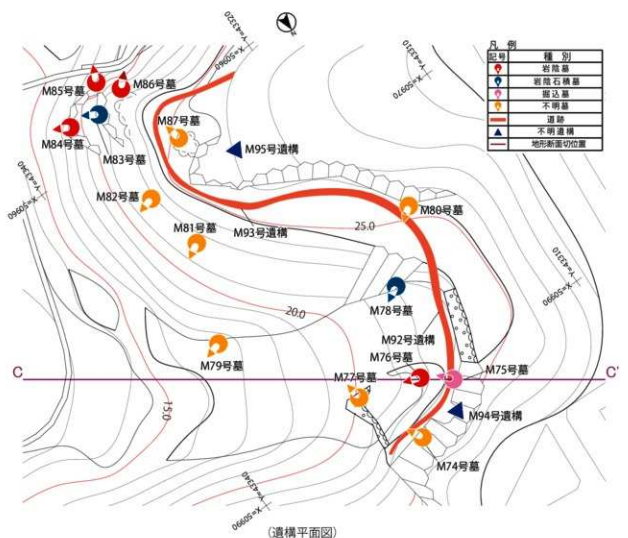


図4.11. 宮城原地区（⑥地区）遺構平面図・断面図及び垂直見透遺構分布図（3）

M58～M69号墓を確認。古墓の分類は、M61号墓（岩陰石積墓）、M58・M59・M60・M62～M69号墓（不明墓）である。

⑥地区 宮城原地区の南端は、琉球石灰岩が分布する丘陵斜面の谷地に位置する。標高7～23m地点から、M70～M87号墓、M91～M95号遺構を確認。古墓の分類は、M76・M84・M85・M86号墓（岩陰墓）、M78・M83号墓（岩陰石積墓）、M75号墓（掘込墓）、M70～M74・M77・M79～M82・M87号墓（不明墓）である。これら古墓は標高17m以上の場所から確認された。また、M91・M

92・M93号遺構（道跡）は、丘陵縁辺部の地形に沿うように設けられ、M94号遺構（不明）、M95号遺構（不明）は、石灰岩岩盤の一部を人為的に平滑にして配石されていた（図4.11）。

以下、宮城原地区で記録したM08号墓・M12号墓・M13号墓・M24号墓・M27号墓・M34号墓・M35号墓・M40号墓・M41号墓・M42号墓・M43号墓・M44号墓・M47号墓・M54号墓・M61号墓・M76号墓・M78号墓・M86号墓について報告する。

M08号墓

M08号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部（標高約19.3m）に位置し、億首川を見下ろすことができる場所に立地する。

当遺構は、直立した石灰岩の岩陰を利用して墓室を構築した岩陰墓（古墓）であり空墓の状態を確認された。墓室内の左側面には、幅0.6m、奥行き1.4

mを測る横穴が確認できた。横穴は蔵骨器を安置するタナ（棚）として造られた可能性が示唆されるが詳細は不明である。墓前には土砂が堆積しているため残存状況は悪く墓の規模はわからない。

遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。築造年代観についても情報が少ないため不明である。

表4.4. M08号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰墓	古墓の位置（グリッド）	Q21
立地	露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部	墓口の向き	北西
規模	(墓口) 幅2.20m/高さ2.30m (墓室) 幅一/高さ一/奥行2.10m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) 一 (墓室外) 一		



写真4.6. M08号墓



020. M08号墓 近景
021. M08号墓 墓室内（横穴）

M12号墓

M12号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹（標高約16m）に位置し、億首川を見下ろすことができる場所に立地する。

当遺構は、石灰岩の斜面窪地を利用して墓室を構築した岩陰墓（古墓）であり空墓の状態を確認された。墓の前面を閉塞する石積等の構造物は確認でき

ていない。墓室内には石灰岩切石の香炉が倒れた状態で確認できた。遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。築造年代観についても情報が少ないため不明である。

悉皆分布調査では、当遺構から西側にM11号墓、東側にM13号墓が隣接して確認された。

表4.5. M12号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰墓	古墓の位置（グリッド）	P21
立地	琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹	墓口の向き	北
規模	(墓口) 幅3.00m/高さ1.50m (墓室) 幅一/高さ一/奥行1.45m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) 香炉	(墓室外)	—



写真4.7. M12号墓



022. M12号墓 遠景
023. M12号墓 近景

M13号墓

M13号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹（標高約16m）に位置し、億首川を見下ろすことができる場所に立地する。

当遺構は、石灰岩の斜面窪地を利用して墓室を構築した岩陰墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓室は約1.9mの奥行きがあり比較的に広い空

間を有していた。墓室を閉塞する石積み等は確認できていないが遺構の周りには石灰岩の礫石が散見される。墓室内には石灰岩切石の香炉が確認できた。

遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。築造年代観についても情報が少ないため不明である。

表4.6. M13号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰墓	古墓の位置（グリッド）	P21
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹	墓口の向き	北
規模	(墓口) 幅1.55m/高さ1.56m (墓室) 幅一/高さ一/奥行1.90m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) 香炉	(墓室外)	—



写真4.8. M13号墓



024. M13号墓 遠景
025. M13号墓 墓室内（香炉設置状況）

M24号墓

M24号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹（標高約14m）に位置し、億首川を見下ろすことができる場所に立地する。

当遺構は、直立した石灰岩の岩陰を利用して、さらに横穴を掘り込んで墓室を構築した岩陰掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。岩盤の開口部付近に石積み的一部（根石）が残存しているが墓室を閉塞していたかは確認できていない。また、石積みには風化した石と新しい石が混在しているこ

とから近年まで使用されていた可能性はある。但し、葬墓との関連性については確認できていない。墓室は幅4.8m、奥行き4.1mを測り、天井は高い箇所でも2mを超える。天井部や奥壁、側壁には掘削時に付いたノミの痕や成形の痕跡が見られた。墓室の床面は開口部から一段低く、石灰岩切石の香炉が倒れた状態で確認できた。墓前には小規模であるが平坦な場所が設けられている。

遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。

表4.7. M24号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰掘込墓	古墓の位置（グリッド）	O21
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹	墓口の向き	北東
規模	(墓口) 幅5.50m/高さ1.70m (墓室) 幅4.80m/高さ—/奥行4.10m (墓庭) 幅4.60m/長さ5.20m		
遺物	(墓室内) 香炉	(墓室外) —	



写真4.9. M24号墓



026. M24号墓 遠景 027. 石積確認状況（墓口）

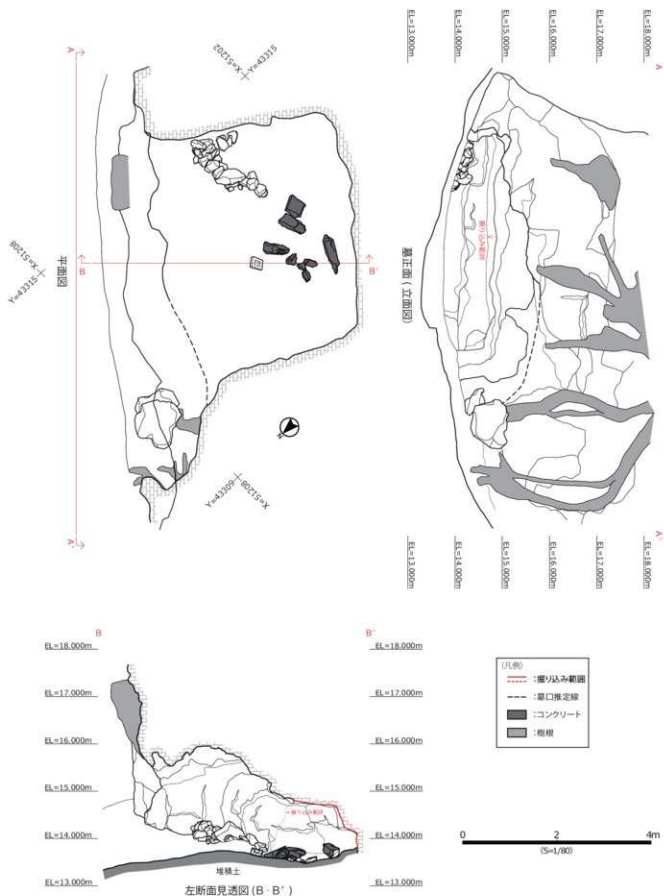


図4.12. M24号墓 (正面・平面・断面図各種)

M27号墓

M27号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約7.5m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、石灰岩の斜面に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓の前面部は岩盤の開口部から前方向の張り出し、コンクリート材を使用して墓口から墓室までの羨道が構築されていた。墓口は蓋石で閉塞さ

れていたが岩盤の割れ目から墓室内部の形状が確認できた。墓室の天井はドーム状に構築され、墓室の側壁と奥壁には蔵骨器を設置するタナ（棚）がみられた。墓前には大量の土砂が堆積しているため詳細な墓の規模は不明である。また、遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。築造年代観についても情報が少ないため不明である。

表4.8. M27号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	O20
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	北東
規模	(墓口) 幅0.62m/高さ0.31m (墓室) 幅—/高さ—/奥行2.30m (墓庭) 幅1.95m/長さ1.50m		
遺物	(墓室内) —	(墓室外) —	



写真4.10. M27号墓



028. M27号墓 遠景
029. M27号墓 近景

M34号墓

M34号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約9m）に位置する。宮城原地区では比較的低い場所で確認した遺構であった。

当遺構は、石灰岩の斜面に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓の開口部床下には墓室を閉塞したとみられる石積みが残る隙間には漆喰の跡が認められた。墓口の幅は1.1mを測り、板状に加工された蓋

石が倒れた状態で確認できた。墓前は墓口から一段低くなり平坦な場所が確保されていた。墓前や墓室内には閉塞に使われたとみられる礫石が散見された。

遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。築造年代観についても情報が少ないため不明である。

悉皆分布調査では当遺構から北側にM31・M32号墓、南西側にM35号墓が隣接して確認された。

表4.9. M34号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	N18
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	東
規模	(墓口) 幅1.15m/高さ1.40m (墓室) 幅—/高さ—/奥行— (墓庭) 幅—/長さ—		
遺物	(墓室内) —	(墓室外) —	



写真4.11. M34号墓



030. M34号墓 遺構
031. M34号墓 近景

M35号墓

M35号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約9m）に位置する。宮城原地区では比較的低い場所で確認した遺構であった。

当遺構は、直立した石灰岩に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墳）であり、空墓の状態を確認された。墓口の幅は0.3mと狭く、蓋石は墓前に倒れていた。当遺構の規模は小さく、簡易的（仮墓）な墓として使用されていたと示唆される。

遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。築造年代についても情報が少ないため不明である。



写真4.12. M35号墓

表4.10. M35号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	N18
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	南東
規模	(墓口) 幅0.30m/高さ0.30m (墓室) 幅—/高さ—/奥行0.40m (墓庭) 幅—/長さ—		
遺物	(墓室内) —	(墓室外) —	

M40号墓

M40号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹（標高約13m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、石灰岩の斜面に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墓）であり、空墓の状態では

認められた。他の遺構と比べ、墓の前面部（岩盤の表面）は平滑に成形されていた。墓口は幅0.53m、高さ0.6mを測り、蓋石は倒れた状態で確認できた。墓室内はドーム状に構築されていた。

遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。

表4.11. M40号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	O18
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹	墓口の向き	南
規模	(墓口) 幅0.53m/高さ0.60m (墓室) 幅一/高さ一/奥行1.10m (墓庭) 幅1.40m/長さ1.00m		
遺物	(墓室内) ー	(墓室外) ー	



写真4.13. M40号墓

033. M40号墓 遠景
034. M40号墓 近景

M41号墓

M41号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約9m）に位置する。宮城原地区では比較的低い場所で確認した遺構であった。

当遺構は、石灰岩の岩陰を利用して、さらに横穴を掘り込んで墓室を構築した岩陰掘込墓（古墓）であった。石灰岩を板状に加工した蓋石で墓口を閉塞

し、塞ぎきれない箇所には20～30cm大の礫石が充填されていた。墓口の前には、サンミデー（緑）として使用したとみられる板状の石（石灰岩）が設けられていた。墓室内には有頸甕形の厨子甕（18～19世紀頃）1基が安置されていた。人骨については確認できていない。

表4.12. M41号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰掘込墓	古墓の位置（グリッド）	N18
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	南東
規模	(墓口) 幅1.05m/高さ0.55m (墓室) 幅一/高さ一/奥行0.75m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) 有頸甕形厨子	(墓室外) ー	



写真4.14. M41号墓



写真4.15. M44号墓

035. M41号墓 遺景
036. 蔵骨器確認状況（墓室内）

M44号墓

M44号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約9m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、直立した石灰岩に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓の前面部は岩盤の開口部から前方向の張り出し、シミイシ（門柱）、ジョウカブイ（門披）、スディイシ（袖石）の切石から構成される。切石と

切石の接地面や前方向に張り出した部分（屋根～岩盤）には漆喰が確認できた。蓋石は墓前に倒れ、その下にはサンミデー（縁）とみられる方形上の切石が設けられていた。墓室内はドーム状に構築されていた。墓前は土砂が堆積しているため墓全体の規模については確認できていない。

遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。築造年代観についても情報が少ないため不明である。

表4.13. M44号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	O18
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	南西
規模	(墓口) 幅0.61m/高さ0.78m (墓室) 幅一/高さ一/奥行1.50m (墓庭) 幅2.90m/長さ0.80m		
遺物	(墓室内) ー	(墓室外) ー	



037. M44号墓 遠景
038. M44号墓 近景

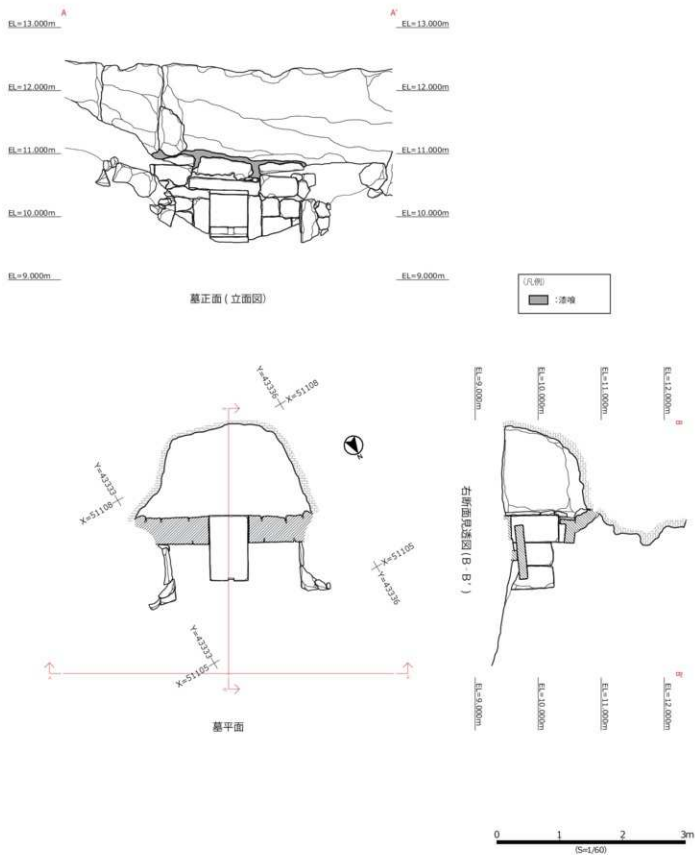


图4.13. M44号墓 (正面·平面·断面图各种)

M47号墓

M47号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約9m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、直立した石灰岩に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墓）であり、空き墓の状態を確認された。墓の前面部は岩盤の開口部から前方向の張り出し、シミイシ（門柱）、ジョウカブイ（門掖）、スディイシ（袖石）の多角形に加工された切

石で構成される。切石と切石の接地面や前方向に張り出した部分（屋根～岩盤）には漆喰が確認できた。蓋石は墓前に倒れて土砂に埋もれていた。墓室内はドーム状に構築されていた。遺物は墓庭の右端では花瓶の欠片1点を確認。墓前は土砂が堆積しているため墓全体の規模については確認できていない。

隣接するM44号墓とほぼ同じ規模で造られていたことから同時期に築造された遺構と考えられる。

表4.14. M47号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	N18
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	南
規模	(墓口) 幅0.64m/高さ0.54m (墓室) 幅一/高さ一/奥行1.50m (墓庭) 幅3.20m/長さ1.30m		
遺物	(墓室内) — (墓室外) 磁器片		



写真4.16. M47号墓

039. M47号墓 遠景
041. 遺物散布状況（墓庭）

040. M47号墓 近景
042. M47号墓 蓋石（墓口前面）

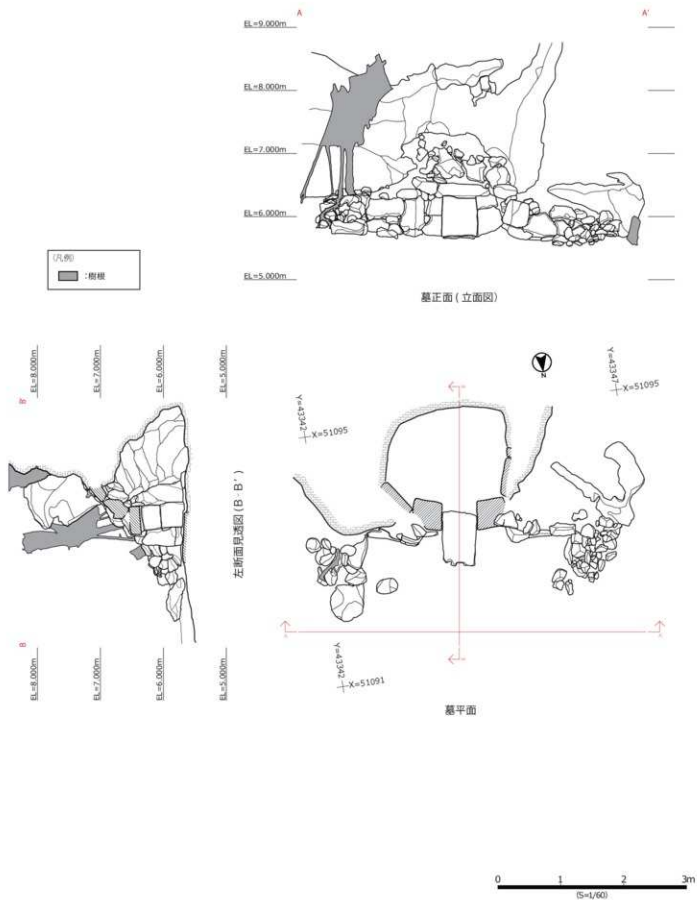


图4.14. M47号墓 (正面·平面·断面图各种)

M54号墓

M54号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面中腹（標高約20m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、比較的脆い石灰岩の岩陰を利用して、さらに横穴を掘り込んで墓室を構築した岩陰掘込墓（古墓）であった。墓口はコンクリートで造られた

蓋石で閉塞されていたため墓室内部の状況は確認できていない。また、墓前は土砂が堆積しているため墓全体の規模については確認できていない。

悉皆分布調査では、当遺跡から東側にM53号墓、西側にM55号墓が確認されている。

表4.15. M54号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰掘込墓	古墓の位置（グリッド）	O17
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	南
規模	(墓口) 幅0.80m/高さ0.60m (墓室) 幅—/高さ—/奥行— (墓庭) 幅2.20m/長さ1.70m		
遺物	(墓室内) — (墓室外) —		



写真4.17. M54号墓



043. M54号墓 遠景
044. M54号墓 近景

M61号墓

M61号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約6m）に位置する。宮城原地区では比較的低い場所で確認した遺構であった。

当遺構は、石灰岩の岩陰を利用して、さらに横穴を掘り込んで墓室を構築した岩陰掘込墓（古墓）であった。墓の前面部は岩盤の開口部に沿って比較的平らな礫石を積み上げ、上部分には隙間があり、完全に閉塞した墓ではなかった。石積みの中央付近には板石上に加工した石灰岩が立てかけるように据

えられており、観察状況から蓋石とみられた。墓前には大量の土砂が堆積しているため墓室内の構造及び、墓全体の規模については確認できていない。遺骨や蔵骨器などの遺物も確認できていない。また、当遺構から前方向には公道が整備されている。墓は地表面から約1.7mの目線の場所にあり、工事の際に削られた可能性も考えられる。

悉皆分布調査では、当遺跡から西側にM60号墓、南側にM62号墓が確認されている。

表4.16. M61号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰石積墓	古墓の位置（グリッド）	N16
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	北東
規模	(墓口) 幅2.30m/高さ0.75m (墓室) 幅一/高さ一/奥行一 (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) ー (墓室外) ー		



写真4.18. M61号墓

045. M61号墓 遠景
046. M61号墓 近景

M76号墓

M76号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近（標高約21m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、石灰岩の斜面窪地を利用して墓室を構築した岩陰墓（古墓）であり、空墓の状態で確認された。墓前から墓室内には大量の土砂が堆積しているため、墓室内の構造及び、墓全体の規模については確認できていない。遺骨や蔵骨器などの遺物につ

いても確認できていない。

遺構周辺では、東側にM77号墓、北側にM75号墓など、他にも多くの墓遺構が確認できているが、殆どの古墓も同様に土砂等が堆積し不明墓として分類された。これら遺構が立地する場所から西方の石灰岩台地上には町営の霊園があり、この霊園が整備された際に流出した土砂などが堆積したものと考えられる。

表4.17. M76号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰墓	古墓の位置（グリッド）	O15
立地	露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近	墓口の向き	東
規模	(墓口) 幅0.48m/高さ0.22m (墓室) 幅一/高さ一/奥行0.45m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) ー (墓室外) ー		



写真4.19. M76号墓



047. M76号墓 遠景
048. M76号墓 近景

M78号墓

M78号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近（標高約22m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、石灰岩の岩陰を利用して、さらに横穴を掘り込んで墓室を構築した岩陰掘込墓（古墓）であり、空墓の状態で確認された。岩陰の開口部から

墓前には、墓室を閉塞していたとみられる石灰岩の礫石が散見された。また、墓室内には土砂が堆積していたため墓室内の構造及び、墓全体の規模については確認できていない。

悉皆分布調査では、当遺構から北側にM75・M76号墓、南側にM80号墓が確認されている。

表4.18. M78号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰石積墓	古墓の位置（グリッド）	O15
立地	露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近	墓口の向き	北東
規模	(墓口) 幅1.50m/高さ0.50m (墓室) 幅一/高さ一/奥行0.80m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) 一	(墓室外) 一	



写真4.20. M78号墓



049. M78号墓 遠景
050. M78号墓 近景

M86号墓

M86号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近（標高約20m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、石灰岩の斜面窪地を利用して墓室を構築した岩陰墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓の前面部には墓室を閉塞していたとみられる石灰石の石積みの一部が残存していた。岩陰内の墓室は墓正面から左右に一箇所ずつ設けられていたのが特徴的であった。左側の墓室は比較的大きな空間があり厨子甕が破棄された状態で確認できた。厨

子甕の内部には遺骨が納められていた。右側の墓室は対照的に小さい空間で蔵骨器などの遺物は確認できていない。また、当遺構は横並びでM83号墓が立地し、両墓室が同じ岩陰内で存在していた。墓室の境界には礎石が積み上げられていた。

悉皆分布調査では、当遺構から東側にM83～M85号墓、北側にM82号墓、北西側にM87号墓が確認されている。

表4.19. M86号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰墓	古墓の位置（グリッド）	O14
立地	露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近	墓口の向き	南西
規模	(墓口) 幅1.05m/高さ0.47m (墓室) 幅一/高さ一/奥行2.00m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) 無頭甕形厨子	(墓室外) —	



写真4.21. M86号墓

051. M86号墓 遠景（南西から） 052. M86号墓 近景
053. M86号墓 蔵骨器確認状況（墓室内） 054. M83号墓 遠景（北東から）

表4.20. 宮城原地区 遺構一覧表(1)

遺構 番号 (調査年)	グリ ッド	遺構 種類	判断 基準	主要 分組	遺構座標 概々-m	基 礎 方向	遺構で決 まる-m	観察概要	相 関 表
M01号基 (19021)	S21	古基	△	不明	X=51235.649 Y=43151.346 標高=9.600	北東	(前面)幅2.80m/高さ4.00m	石灰岩の礎を利用した基の可成りあり。基本体が崩壊していると思われる。詳細は不明。前面直縁は石が埋められている可成りあり。	
M02号基 (19023)	S21	古基	△	不明	X=51220.560 Y=43170.941 標高=9.550	北	(前面)幅0.70m/高さ0.55m	石灰岩の礎を利用した基の可能性あり。壁に準じて工したような方形を呈する。右縁がコンクリート積造壁により閉じられ詳細不明。	
M03号基 (19025)	S21	古基	△	不明	X=51215.191 Y=43167.178 標高=13.710	北東	(前面)幅1.90m/高さ0.25m (前面)幅3.50m/高さ3.10m	石灰岩の礎を利用した基の可能性あり。壁が礎でできたが崩壊している可成りあり。前面に平土面を有し、左縁は土留めと思われる外石を有する。	
M04号基 (19027)	S20	古基	○	右縁基	X=51192.086 Y=43173.415 標高=27.180	北東	(前面)幅3.10m/高さ1.20m	石灰岩の礎の礎を利用した右縁基の可成りあり。右縁は広く開口していたが、埋没し詳細不明。	
M05号基 (19029)	R20	古基	△	不明	X=51193.302 Y=43181.603 標高=28.340	北	(前面)幅2.30m/高さ0.80m	ほぼ直立する石灰岩の礎の礎を利用した基の可成りあり。右縁内は埋没し詳細は不明。右縁内は、開口部から下方に深く下り傾斜の可成りあり。	
M06号基 (19032)	Q21	古基	△	不明	X=51205.903 Y=43220.680 標高=27.710	北	(前面)幅1.20m/高さ0.60m	ほぼ直立する石灰岩の礎の礎を利用した基の可成りあり。壁が礎でできたが、右縁部分が残され詳細不明。右縁内は奥縁に。	
M07号基 (17112)	Q21	古基	△	不明	X=51228.816 Y=43230.478 標高=12.211	北	(前面)幅1.90m/高さ0.90m	奥縁に覆はれる石灰岩の礎の礎を利用した基の可成りあり。右縁面に壁が礎でできたが、埋没し詳細は不明。	
M08号基 (17113)	Q21	古基	○	右縁基	X=51216.286 Y=43239.509 標高=19.320	北東	(前面)幅2.20m/高さ2.30m (後面)奥行2.10m	ほぼ直立する石灰岩の礎の礎を利用した右縁基の可成りあり。右縁内は壁が礎でできたが、灰は埋没し詳細不明。	P40
M09号基 (17169)	Q21	古基	△	不明	X=51221.378 Y=43243.994 標高=16.610	北東	(前面)幅1.30m/高さ0.90m	石灰岩の礎の礎を利用した基の可成りあり。埋没し詳細不明。	
M10号基 (17114)	Q21	古基	○	右縁基	X=51224.265 Y=43246.045 標高=14.993	北東	(前面)幅1.30m/高さ1.10m	石灰岩の礎の礎を利用した右縁基の可成りあり。右縁内は壁が礎でできたが、灰は埋没し詳細不明。	
M11号基 (17170)	P21	古基	△	不明	X=51228.220 Y=43260.264 標高=16.443	北		石灰岩の礎を利用した基の可成りあり。右縁の一部に平土に加工したと思われる土あり。	
M12号基 (17115)	P21	古基	○	右縁基	X=51227.779 Y=43270.226 標高=16.449	北	(前面)幅3.00m/高さ1.50m (後面)奥行1.45m	石灰岩の礎の礎を利用した右縁基。右縁の右縁内は平土に加工。右縁内では壁が礎でできたが、埋没し詳細不明。	P41
M13号基 (17116)	P21	古基	○	右縁基	X=51227.779 Y=43274.307 標高=16.190	北	(前面)幅1.55m/高さ1.56m (後面)奥行1.90m	石灰岩の礎の礎を利用した右縁基。右縁の右縁内に高さ0.80m、幅1.70m、奥へ0.90mの礎あり。右縁内に土を留め置いているが木束の位置から移動している可成りあり。	P41
M14号基 (17117)	P21	古基	△	不明	X=51227.537 Y=43288.611 標高=12.348	北	(前面)幅2.45m/高さ0.80m	石灰岩の礎の礎を利用した基の可成りあり。右縁内は埋没し詳細不明。	
M15号基 (17118)	Q21	古基	△	不明	X=51224.728 Y=43301.223 標高=17.030	北	(前面)幅0.90m/高さ0.45m (右縁内)奥行0.80m	石灰岩の礎の礎を利用した基の可成りあり。右縁内は埋没し詳細不明。	
M16号基 (17121)	Q21	古基	○	右縁基	X=51216.062 Y=43259.093 標高=30.655	北	(前面)幅1.90m/高さ0.55m	石灰岩の礎の礎を利用した右縁基。壁が礎でできたが、石灰岩の礎が礎でできた。右縁内が平土面となり、右縁の壁を確認。	
M17号基 (17120)	P21	古基	△	不明	X=51220.261 Y=43288.177 標高=25.896	北東	(前面)幅1.65m/高さ1.20m	石灰岩の礎の礎を利用した基の可成りあり。右縁内は埋没し詳細不明。	
M18号基 (17125)	P21	古基	△	不明	X=51217.516 Y=43284.613 標高=31.730	北	(前面)幅2.50m/高さ1.00m	石灰岩の礎の礎を利用した基の可成りあり。右縁内に壁が礎あり。大部分が埋没し詳細不明。	

*1 古基判断基準凡例 ○：人為的痕跡を確認した古基 △：人為的痕跡を確認できなかった古基 △：古基が崩壊または埋没している可能性のある斜面の遺構

*2 備考欄で使用する「右」「左」は基正面に向き合った方向である。

表4.21. 宮城原地区 遺構一覧表(2)

遺構 番号 (臨空号)	グ リ ド	遺構 種類	半 断 面	土 層 分 類	遺構座標 標高-m	基 礎 方 向	遺構寸法 標高-m	説明・調査	担 当 員
M19号墓 (17124)	P21	土器	△	不明	X=51215.693 Y=43281.666 標高=33.930	北	(深み)幅2.10m/高さ0.77m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓面に若干の石が散見。大半が埋没し詳細不 明。	
M20号墓 (17111)	O21	土器	△	不明	X=51217.216 Y=43316.509 標高=8.696	北東	(深み)幅0.80m/高さ0.40m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓内は土壌が詳細不明。	
M21号墓 (17110)	O21	土器	△	不明	X=51211.083 Y=43320.783 標高=9.192	北東	(深み)幅1.70m/高さ1.15m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓面にこの字に込められた石を散見。大半が埋没 し詳細不明。	
M22号墓 (17108)	O21	土器	△	不明	X=51208.213 Y=43319.749 標高=11.122	北東	(深み)幅1.40m/高さ0.75m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓内は埋没し詳細不明。	
M23号墓 (17119)	O21	土器	△	不明	X=51210.603 Y=43308.641 標高=15.908	北東	(深み)幅1.00m/高さ0.60m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓内は埋没し詳細不明。	
M24号墓 (17109)	O21	土器	○	岩盤 定礎	X=51206.048 Y=43313.359 標高=14.257	北東	(墓口)幅5.50m/高さ1.70m (墓室)幅4.80m/奥行4.10m (墓室)幅4.60m/長さ5.20m	石灰岩地盤の墳みを利用した大型の石造墓。墓 口の一部には石積みが見え、墓室内には土 形を呈す。墓室内では石を散見。墓室を有す る。	P42
M25号墓 (17106)	O20	土器	△	不明	X=51192.511 Y=43328.285 標高=4.162	南東	(深み)幅1.40m/高さ0.50m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可能性あり。墳 墓面に若干の石が散見。大半が埋没し詳細不 明。	
M26号墓 (17107)	O20	土器	△	不明	X=51193.737 Y=43322.150 標高=11.214	北	(深み)幅1.10m/高さ0.45m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓内は土壌が詳細不明。	
M27号墓 (17105)	O20	土器	○	定礎	X=51186.925 Y=43327.593 標高=7.477	北東	(墓口)幅0.62m/高さ0.31m (墓室)幅2.30m (墓室)幅1.95m/長さ1.50m	新築地を築いた。墳みを利用した墓の可能性あり。墳 墓内にコンクリート製の土を散見。墓室内 には土形を呈す。大半が埋没し詳細不明。墓 室内には土形を呈す。大半が埋没し詳細不明。	P44
M28号墓 (17104)	O20	土器	△	不明	X=51181.379 Y=43331.065 標高=9.005	北東	(深み)幅1.10m/高さ0.70m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓内に土壌が散見。大半が埋没し詳細不明。 前面に土壌面あり。	
M29号墓 (17103)	O20	土器	△	不明	X=51161.946 Y=43336.523 標高=15.603	北東	(深み)幅1.20m/高さ0.50m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可能性あり。墳 墓内は土壌が詳細不明。	
M30号墓 (17128)	P19	土器	○	定礎	X=51145.392 Y=43298.574 標高=29.300	—	—	平地上にある小型の輪形墓の残存。墳みを利用した墓の可能性あり。墳 墓内にコンクリートとブロックが散見。土壌を散見し詳細不明。	
M31号墓 (17098)	N19	土器	△	不明	X=51122.187 Y=43360.896 標高=8.851	東	(深み)幅1.45m/高さ1.30m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可能性あり。墳 墓面に墳みを散見。大半が埋没し詳細不明。	
M32号墓 (17097)	N19	土器	△	不明	X=51120.477 Y=43359.909 標高=9.881	東	(深み)幅1.20m/高さ0.50m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓面に墳みを散見。大半が埋没し詳細不明。	
M33号墓 (17168)	O18	土器	△	不明	X=51116.998 Y=43329.066 標高=17.722	北東	(深み)幅0.80m/高さ0.22m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓内に土壌を散見。大半が埋没し詳細不明。	
M34号墓 (17096)	N18	土器	○	定礎	X=51112.084 Y=43358.831 標高=9.069	東	(墓口)幅1.15m/高さ1.40m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓内に土壌を散見。大半が埋没し詳細不明。	P44
M35号墓 (17095)	N18	土器	○	定礎	X=51107.595 Y=43356.262 標高=9.861	南東	(墓口)幅0.30m/高さ0.30m (墓室)奥行0.40m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可成りあり。墳 墓内に土壌を散見。大半が埋没し詳細不明。	P45

*1 古墳判断基準凡例 ○：人為的痕跡を確認した古墳 △：人為的痕跡を確認できなかった古墳

*2 備考欄で使用する「右」「左」は墓正面に向き合った方向である。

表4.2.2. 宮城原地区 遺構一覧表(3)

遺構 番号 (臨空号)	グ リ ド	遺 構 種 類	半 断 基 礎	土 層 分 類	遺構座標 概々-m	墓 口 方 向	遺構寸法 概々-m	概 略 説 明	成 員 表
M36号墓 (17094)	N18	土層	△	不明	X=51103.805 Y=43346.309 標高=14.412	南	(既口側)幅1.60m/高さ1.55m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可能性あり。葬 送面で墳みを確認。大井戸が埋没し詳細不明。	
M37号墓 (17093)	N18	土層	△	不明	X=51103.864 Y=43344.825 標高=13.863	南	(既口側)幅1.50m/高さ1.45m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可能性あり。葬 送面で墳みを確認。大井戸が埋没し詳細不明。	
M38号墓 (17092)	N18	土層	◎	砂込墓	X=51104.786 Y=43341.653 標高=13.164	南	(墓口側)幅1.50m/高さ1.10m (既口側)幅2.10m/高さ1.10m	石灰岩地盤を掘り込んだ砂込墓。墓口には礎石を 有し、漆板で隙間を埋める。墓口蓋は砂板で蓋が り詳細不明。前面に左右の縦溝あり。	
M39号墓 (17091)	O18	土層	◎	岩盤 砂込墓	X=51106.606 Y=43339.785 標高=13.328	北東	(墓口)幅1.00m/高さ0.30m (墓蓋)奥行0.75m	石灰岩地盤を掘り込んだ砂込墓。大井戸に掘り込 んだ遺跡あり。墓口内は埋没し詳細不明。	
M40号墓 (17090)	O18	土層	◎	砂込墓	X=51108.254 Y=43337.111 標高=13.122	南	(墓口)幅0.53m/高さ0.60m (墓蓋)奥行1.10m (墓蓋)幅1.40m/長さ1.00m	石灰岩地盤を掘り込んだ砂込墓。墓口は縦板の長 方形を呈し、溝石を有す。墓蓋の平面形状は横 門型を呈す。	P46
M41号墓 (17087)	N18	土層	◎	岩盤 砂込墓	X=51101.346 Y=43349.826 標高=8.892	南東	(墓口)幅1.05m/高さ0.55m (墓蓋)奥行0.75m	石灰岩地盤の墳みを利用した岩盤砂込墓。墓口を 板状の石で蓋ぎ、附けには小さな石を据える。 墓口内では割子壁を1基確認。墓前面でサンミデ の可能性のある板状の石を確認。	P46
M42号墓 (17088)	N18	土層	◎	岩盤 砂込墓	X=51099.974 Y=43341.122 標高=10.379	南	(墓口)幅0.80m/高さ0.85m (墓口側)幅2.40m/高さ1.60m (墓蓋)幅1.80m/長さ2.50m	石灰岩地盤の墳みを利用した岩盤砂込墓。墓口側 には砂詰め、墓口蓋は溝石を有す。墓口蓋の長 方形を呈し、溝石を有す。墓蓋の平面形状は横 門型を呈す。天井にはドーム状を呈す。 墓蓋と側壁の石を1段埋め。	
M43号墓 (17089)	O18	土層	◎	岩盤 石積墓	X=51104.869 Y=43336.602 標高=10.351	南東	(墓口)幅0.78m/高さ0.55m (墓口側)幅1.90m/高さ1.50m (墓蓋)奥行1.00m	石灰岩地盤の墳みを利用した岩盤石積墓。墓口 は割子壁の石積みで蓋ぎ。	
M44号墓 (17085)	O18	土層	◎	砂込墓	X=51106.510 Y=43334.184 標高=9.703	南東	(墓口)幅0.61m/高さ0.78m (墓蓋)奥行1.50m (墓蓋)幅2.90m/長さ0.80m	石灰岩地盤を掘り込んだ砂込墓。工法は切石を築 み、墓口を縦板の長方形に構築。漆板で石積みの 隙間を埋める。墓石を有し、サンミデの可能性 がある板石を確認。墓口内床面は台形状。大井戸 は下口内である。墓蓋両側に切石を積み上げた補 強あり。	P47
M45号墓 (17086)	N18	土層	△	不明	X=51094.645 Y=43361.784 標高=3.981	東	(既口側)幅0.77m/高さ0.40m	石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可能性あり。右 側に石灰岩の石積、左側にコンクリートが付着 する石灰岩を確認。	
M46号墓 (17099)	N18	土層	△	不明	X=51094.197 Y=43351.177 標高=5.643	南	(既口側)高さ0.90m	砂面地の石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可能 性あり。右側に砂と砂状になる。右側内は埋没 し詳細不明。	
M47号墓 (17100)	N18	土層	◎	砂込墓	X=51093.084 Y=43344.210 標高=5.691	南	(墓口)幅0.64m/高さ0.54m (墓蓋)奥行1.50m (墓蓋)幅3.20m/長さ1.30m	急斜面に露出する石灰岩地盤を掘り込んだ砂込 墓。墓口内は切石を積み、墓口を縦板の長方形に 構築。漆板で石積みの隙間が埋める。墓口側で 溝石と思われる板石を確認。墓口内床面は台形状、 大井戸はドーム状を呈す。墓口内の床面には板石 が中央部とそれを支えるように隙間。墓蓋両側に切 石を積み上げた補強あり。	P50
M48号墓 (17101)	N18	土層	△	不明	X=51095.215 Y=43340.805 標高=6.438	南東	(既口側)幅1.80m/高さ0.90m	ほぼ直交する石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可 能性あり。右側内は埋没し詳細不明。	
M49号墓 (17102)	O18	土層	△	不明	X=51097.565 Y=43338.477 標高=7.667	南東	(既口側)幅2.50m/高さ0.85m	急斜面の石灰岩地盤の墳みを利用した墓の可能 性あり。右側に下口から引け、右側内は埋没し詳 細不明。	

表4.2.3. 宮城原地区 遺構一覧表(4)

遺構 番号 (調査号)	グリ ッド	遺構 種類	半断面 基準	土層 分類	遺構座標 緯度・m	基 礎 方 向	遺構寸法 緯度・m	説 明 説 明	相 関 表
M50号墓 (14001)	O18	土層	◎	△	X=51107.500 Y=43325.202 標高=10.209	北	(幅) W約0.50m/高さ0.98m /奥行き0.60m (長さ) W約1.76m/高さ1.30m/ 奥行き1.46m	H25年度に調査。急斜面に露出する石灰岩片を 取り込んだ石灰層。墓工面は計画図で墓室を構築。 墓1は一面大きい石を使用し、長方形に形 成。墓2は墓室内で確認。墓室内外は漆喰を塗 布。墓室内床は平門形状。墓室奥壁際の石灰岩 片を削り「タナ」を形成。墓室内で人骨片、墓室 外で1枚の角礫片を収め。	P114
M51号墓 (17084)	O18	土層	△	不詳	X=51081.001 Y=43321.392 標高=13.142	東	(幅) W約1.15m/高さ0.56m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。葬 送の厚みを石が墓蓋詳細不明。	
M52号墓 (17083)	O17	土層	△	不詳	X=51062.444 Y=43309.907 標高=18.996	南	(幅) W約0.66m/高さ0.38m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。急 斜面で若干の厚みを確認。大部分が埋没し詳細不 明。	
M53号墓 (17078)	O17	土層	◎	△	X=51064.195 Y=43305.634 標高=20.233	南	(幅) W約0.88m/高さ0.50m (長さ) W約1.90m/長さ1.40m	石灰岩片の層を利用したと推定。墓2は 石灰岩片で造られ、墓室内の状況は詳細不明。前庭に 墓蓋と思われる平坦面あり。	
M54号墓 (17079)	O17	土層	◎	△	X=51065.975 Y=43301.012 標高=20.985	南	(幅) W約0.80m/高さ0.60m (長さ) W約2.20m/長さ1.70m	石灰岩片の層を利用したと推定。墓2は 石灰岩片で造られ、墓室内の状況は詳細不明。前庭に 墓蓋と思われる平坦面あり。	P51
M55号墓 (17080)	P17	土層	△	不詳	X=51066.290 Y=43298.619 標高=22.002	南	(幅) W約0.40m/高さ0.27m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。急 斜面は埋没し詳細不明。1号門で花壇と思われる 構造を2点確認。	
M56号墓 (17082)	P17	土層	◎	△	X=51063.075 Y=43297.810 標高=21.682		(長さ) W約0.97m/高さ0.88m	斜面地にある小型の墓形。石灰岩片の層。高さ 0.07mのコンクリート基。本体部分が確認でき ず、基に位置していた石灰岩の一部の可能性あり。	
M57号墓 (17077)	O17	土層	△	不詳	X=51054.322 Y=43309.151 標高=17.699	北	(長さ) W約1.45m /高さ0.85m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。墓 室内の奥壁・土壁の一部の状況がある石灰層を 確認。大部分が埋没し詳細不明。	
M58号墓 (17076)	O17	土層	△	不詳	X=51044.644 Y=43325.546 標高=17.007	北	(幅) W約1.20m/高さ0.43m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。葬 送で若干の厚みを確認。大部分が埋没し詳細不 明。	
M59号墓 (17020)	N16	土層	△	不詳	X=51028.879 Y=43357.455 標高=9.869	北	(長さ) W約0.5m/高さ1.35m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。 斜面により土層が崩落し、墓室奥壁の下壁に ある石灰層を確認。床面は埋没し詳細不明。	
M60号墓 (17075)	N16	土層	△	不詳	X=51038.285 Y=43342.008 標高=12.242	北	(幅) W約1.45m/高さ0.72m	急斜面に露出する石灰岩片の層を利用した墓 の可能性あり。急斜面で若干の厚みを確認。大部分 が埋没し詳細不明。	
M61号墓 (17022)	N16	土層	◎	△	X=51027.363 Y=43368.805 標高=6.050	北	(長さ) W約2.30m/高さ0.75m	石灰岩片の層を利用したと推定。墓2は 石灰岩片の層で造られ、墓室内の状況は詳細不明。	P51
M62号墓 (17018)	N16	土層	△	不詳	X=51020.110 Y=43367.680 標高=8.787	北	(幅) W約1.40m/高さ1.20m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。急 斜面で若干の厚みを確認。大部分が埋没し詳細不 明。	
M63号墓 (17133)	N16	土層	△	不詳	X=51023.789 Y=43351.495 標高=17.639	北	(幅) W約1.00m/高さ0.55m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。急 斜面で若干の厚みを確認。大部分が埋没し詳細不 明。	
M64号墓 (17134)	N16	土層	△	不詳	X=51017.730 Y=43353.043 標高=22.641	北	(幅) W約1.15m/高さ0.40m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。急 斜面で若干の厚みを確認。大部分が埋没し詳細不 明。	
M65号墓 (17074)	M15	土層	△	不詳	X=50996.872 Y=43385.363 標高=9.538	北	(幅) W約0.95m/高さ0.34m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。急 斜面で若干の厚みを確認。大部分が埋没し詳細不 明。	
M66号墓 (17073)	M15	土層	△	不詳	X=50996.378 Y=43385.356 標高=9.854	北	(幅) W約0.55m/高さ0.23m	石灰岩片の層を利用した墓の可能性あり。急 斜面で若干の厚みを確認。大部分が埋没し詳細不 明。	

*1 古墳調査基準凡例 ○：人為的痕跡を確認した古墳 ◎：人為的痕跡を確認できなかった古墳 △：古墳が崩壊または埋没している可能性がある斜面地の遺構

*2 備考欄で使用する「右」「左」は最正面に向き合った方向である。

表4.24. 宮城原地区 遺構一覧表 (5)

遺構 番号 (宮空海)	グリ ッド	遺構 種類	判断 基準	土層 分類	遺構座標 概々-m	基 礎 方 向	遺構寸法 概々-m	取 扱 説 明	地 蔵 員
M67号墓 (17072)	M15	土層	△	不明	X=50995.361 Y=43385.996 標高=10.069	北東	(開口幅)1.09m/高さ0.34m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。	
M68号墓 (17071)	M15	土層	△	不明	X=50993.193 Y=43388.228 標高=9.923	北東	(開口幅)1.10m/高さ0.90m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵内は埋没し詳細不明。	
M69号墓 (17070)	M15	土層	△	不明	X=50991.217 Y=43390.880 標高=10.498	北東	(開口幅)1.92m/高さ0.74m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵内は埋没し詳細不明。	
M70号墓 (17135)	M15	土層	△	不明	X=50970.109 Y=43394.868 標高=14.873	南東	(開口幅)3.10m/高さ1.50m	急傾斜に露出する石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。斜面で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。	
M71号墓 (17136)	M15	土層	△	不明	X=50965.895 Y=43383.037 標高=9.998	南東	(開口幅)2.00m/高さ0.60m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵内は埋没し詳細不明。	
M72号墓 (17066)	N14	土層	△	不明	X=50958.855 Y=43373.066 標高=6.552	東	(開口幅)2.20m/高さ1.25m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。崩壊した石灰岩が重なり形成された崩壊状の空を形成。大部分が埋没し詳細不明。	
M73号墓 (17138)	N15	土層	△	不明	X=50987.596 Y=43363.775 標高=22.826	南西	(開口幅)0.95m/高さ0.35m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。石造で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。	
M74号墓 (17172)	O15	土層	△	不明	X=50992.852 Y=43326.937 標高=23.316	南東	(開口幅)1.10m/高さ0.30m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵内は埋没し詳細不明。	
M75号墓 (17171)	O15	土層	○	不明	X=50991.578 Y=43322.325 標高=23.291	南東	(開口幅)0.60m/高さ0.30m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。石造で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。	
M76号墓 (17141)	O15	土層	○	不明	X=50988.955 Y=43324.664 標高=21.451	東	(開口幅)0.48m/高さ0.22m (開口幅)0.45m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。石造で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。石造の墓は50cm程度高。	P52
M77号墓 (17144)	O15	土層	△	不明	X=50987.429 Y=43329.154 標高=20.108	南	(開口幅)1.00m/高さ0.36m (開口幅)0.50m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵内は埋没し詳細不明。	
M78号墓 (17142)	O15	土層	○	不明	X=50982.042 Y=43321.696 標高=22.390	北東	(開口幅)1.50m/高さ0.50m (開口幅)0.80m	急傾斜に露出する石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。石造で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。石造の墓は50cm程度高。	P53
M79号墓 (17140)	O15	土層	△	不明	X=50977.533 Y=43335.649 標高=16.545	東	—	急傾斜に多量の石が堆積している状態を確認。墓の残存が不明。墓本体が埋没している可能性あり。石造で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。	
M80号墓 (17146)	O15	土層	△	不明	X=50977.525 Y=43317.203 標高=25.196	北東	(開口幅)2.20m/高さ1.20m	急傾斜に露出する石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。斜面で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。	
M81号墓 (17166)	O15	土層	△	不明	X=50970.158 Y=43332.375 標高=22.269	北東	(開口幅)1.60m/高さ0.70m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。	
M82号墓 (17165)	O15	土層	△	不明	X=50965.249 Y=43333.224 標高=22.697	東	(開口幅)2.00m/高さ0.70m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵内は埋没し詳細不明。	
M83号墓 (17164)	O14	土層	○	不明	X=50957.500 Y=43332.706 標高=20.418	南東	(開口幅)1.30m/高さ0.90m (開口幅)1.30m (開口幅)3.50m/長さ0.80m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。石造で若干の残存を確認。大部分が埋没し詳細不明。石造の墓は50cm程度高。	
M84号墓 (17163)	O14	土層	○	不明	X=50957.015 Y=43335.099 標高=17.280	南東	(開口幅)1.40m/高さ0.73m	石灰岩の墓の残存した墓の可能性あり。地蔵内に平土面を有す。石造の墓は50cm程度高。	

表4.25. 宮城原地区 遺構一覽表 (6)

遺構 番号 (航空写真)	グリ ッド	遺構 種類	判断 基準	古層 分類	遺構全深 幅[m]	墓に 方向	遺構寸法 幅・m	調査概要	把握 状況
M85号墓 (I7162)	O14	土器	○	弥生層	X=50955.347 Y=43331.394 標高=18.101	南西	(開口)幅1.40m/高さ0.43m (墓室)奥行1.00m	石灰岩片の破片を利用した蓋の可能性あり。葬具内は未だ不明不白。埋葬前には土器が置かれていた。	
M86号墓 (I7161)	O14	土器	◎	弥生層	X=50956.874 Y=43330.104 標高=20.128	南西	(開口)幅1.05m/高さ0.47m (墓室)奥行2.00m	石灰岩片の破片を利用した土器製の蓋。蓋の下に土器を複数枚重ねた状態。蓋の中心に灰汁の跡。蓋はM83号墓と同一の様式で造られている。蓋の前には土器が置かれていた。	P54
M87号墓 (I7149)	O15	土器	△	不詳	X=50962.676 Y=43328.700 標高=25.142	南	(開口)幅0.46m/高さ0.25m	石灰岩の破片を利用した蓋の可能性あり。葬具内に土器と見られる土器があり、大部分が壊れて残っていない。土器が土器の上に置かれていた。	
M88号遺構 (I7130)	P18	石積み			X=51093.335 Y=43292.023 標高=28.063	西		コンクリートの塊の破片の可能性がある。昭和初期の築設によるものと思われる。幅約1.00m、長さ1.08m。	
M89号遺構 (I9033)	R21	石積み			X=51218.957 Y=43216.853 標高=17.930		(石積範囲)長さ1.70m	急傾斜地に設置された石積みの石積み。石積みは南から北にかけて残り、1段積み上げられていて、石積みの上で土器が形成され、土器と土器との距離がコの字状を示す。また、土器の破片、土器などを発見し、土器に付着した土器の破片、それを立証する土器を確認できず、遺構の種類は石積みと推定されている。	
M90号遺構 (I7081)	P17	石積み			X=51064.114 Y=43289.361 標高=24.746		(石積範囲)長さ3.00m	斜面下部にて確認された石積みの石積み。北から南にかけて残り、5~6段積み上げられていて、一方の平らな面は土器の破片。この一部でしか確認できず、左側に残っているかは不明。	
M91号遺構 (I7069)	M15	遺跡			X=50974.623 Y=43407.604 標高=19.917			南から北に向けて延びる遺跡で、石灰岩の破片を埋め込んで築かれた可能性あり。	
M92号遺構 (I7143)	O15	遺跡			X=50985.102 Y=43319.761 標高=23.000			北側から南へ伸び、M78号墓～M75号墓を繋ぐ遺構の可能性あり。遺構内部に石積みを発見。石積みの向きは南北、幅は1.80m、長さは7.20mを測る。石積みは大型の切り石を積み重ねて、小さな石で隙間を埋める。石積みは一帯の平坦地造成に伴い確認された可能性あり。他の石積みとは異なり、切り石が大半であることを確認。	
M93号遺構 (I7147)	O15	遺跡			X=50969.859 Y=43327.916 標高=25.400			北から南に向けて延びる遺跡。確認した石灰岩の破片を土間に埋め込み、M90号墓～M95号遺構まで確認。北側はM92号遺構と繋がっており、南側はM95号遺構付近まで確認。	
M94号遺構 (I7173)	O15	不明			X=50992.988 Y=43323.522 標高=24.150			石灰岩の破片を利用して不明な遺構。石灰岩の破片の一部で土器の破片を発見し、その一部でしか確認できない。	
M95号遺構 (I7148)	O15	不明			X=50966.281 Y=43325.619 標高=26.319			M93号遺構に囲まれた不明な遺構。数センチメートル程度の石の破片まで発見された。長さ5.10m、幅は2.70mを測る。石灰岩の破片の破片で、M93号遺構に近く、西側には石灰岩の破片の破片で覆われている石と土器・土器を埋め込む。この遺構は土器の上に位置し、石灰岩の破片の破片で覆われている可能性があると考えられる。	

※1 古基判断基準凡例 ○：人為的直路を確認した古基 ◎：人為的直路が確認できなかった岩陰 △：古基が崩落または埋没している可能性がある斜面地の窪み
※2 図例欄で使用する「右」「左」は真正面に向き合った方向である。

第3節 田慶志原地区の遺構

田慶志原地区は、並里集落から東方に位置し、億首川下流域の右岸に所在する。当地区には、「ミーチェ（古地名）」^{*1}と呼ばれる墓城があり、現在は、町の霊園（宮城原霊園）として利用されている。また、金武バイパスの開通に伴い地形が大きく削られた場所になる。

予備調査は、琉球石灰岩の丘陵台地縁辺部から低地部にかけて実施した。確認された遺構は、古墓42基（岩陰墓7基・岩陰石積墓1基・掘込墓11基・岩陰掘込墓2基・不明墓21基）、石積み3基、不明遺構1基であり、合計46基を数える。平成25・26年度の発掘調査^{*2}では古墓遺構を主に記録調査がおこなわれた。

以下、田慶志原地区の遺構分布について金武バイパスを境に①・②の小区区に分けて詳解する（図4.15・図4.16）。

①地区 田慶志原地区の西側は、琉球石灰岩および嘉陽層の丘陵斜面に位置する。標高4～20m地点から、T01～T36号墓、T43・T46号遺構を確認。古墓の分類は、T08・T09・T15～T18・T25号墓（岩陰墓）、T29・T36号墓（岩陰掘込墓）、T27号墓（岩陰石積墓）、T03・T04・T06・T20・T26・T28・T30～T34号墓（掘込墓）、T01・T02・T05・T07・T10～T14・T19・T21～T24・T35号墓（不明墓）である。これら古墓の殆どが標高10～18m地点に集中していた。また、T43号遺構（石積み）は、丘陵台地の縁辺部で確認。T46号遺構（不明）は、低地部の崖斜面を掘込んだ遺構として確認した（図4.17・図4.18）。

②地区 田慶志原地区の東側は、嘉陽層の丘陵斜面に位置する。標高4～9m地点から、T37～T42号墓、T44・T45号遺構を確認。古墓の分類は、T37～T42号墓まですべて不明墓になる。その殆どが土砂等により埋没していたため分類はできなかった。T44・T45号遺構は、急斜面に設けられた野面積みの石積みである。

以下、田慶志原地区で記録したT03号墓・T04号墓・T06号墓・T08号墓・T20号墓・T34号墓・T36号墓について報告する。

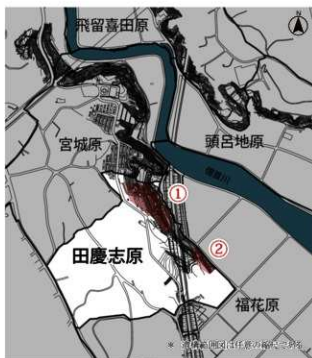


図4.15. 田慶志原地区 遺構範囲図



写真4.22. 田慶志原地区遠景（南東より）



写真4.23. 田慶志原地区近景（北東より）

*1 金武区誌編集委員会編『金武区誌 戦前編』（上巻）1994年

並里区誌編集委員会編『並里区誌 戦前編』1998年

*2 金武町教育委員会編『「ミーチェ」の古墓群—億首川流域古墓群—ミーチェ地区—』（金武町の歴史と文化 第8集）2019年

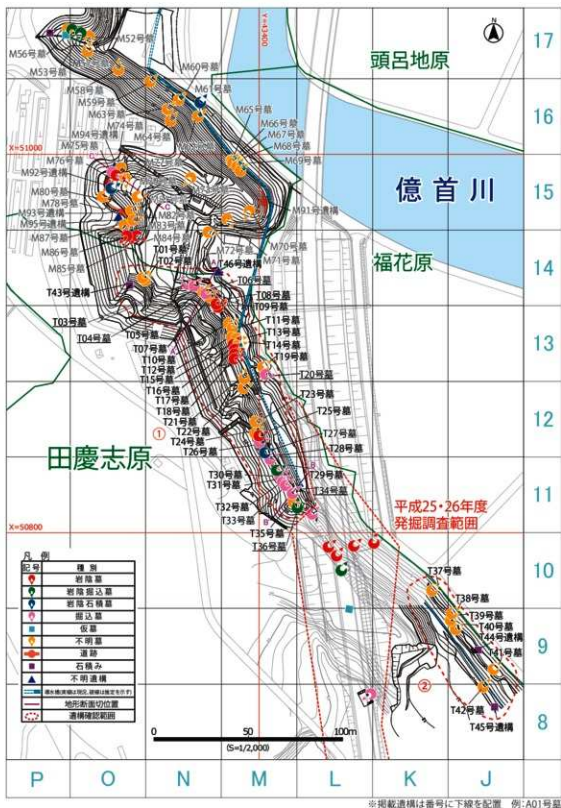
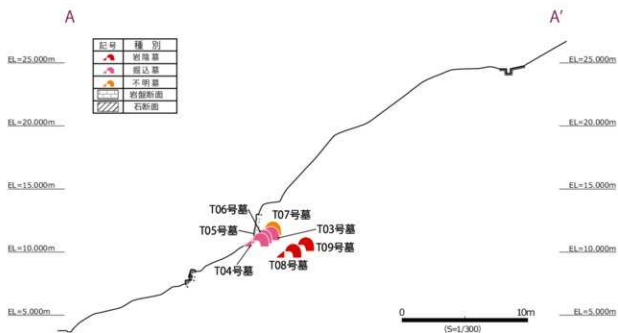


図4.16. 田慶志原地区 遺構位置図



(遺構平面図)



(遺構断面図)

図4.17. 田慶志原地区 (①地区) 遺構平面図・断面図及び垂直見透遺構分布図 (1)

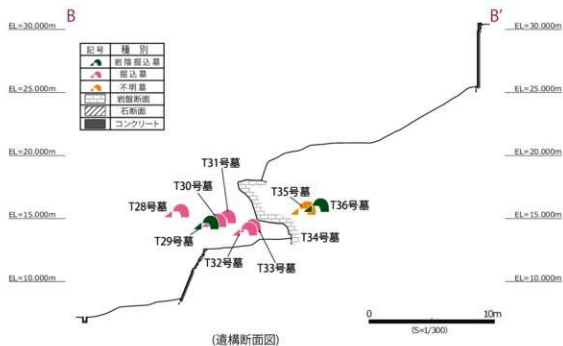
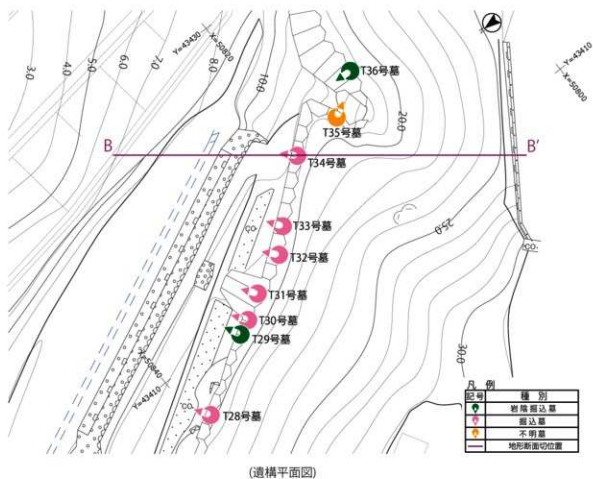


図4.18. 田慶志原地区 (①地区) 遺構平面図・断面図及び垂直見透遺構分布図 (2)

T03号墓

T03号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約10m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、直立した石灰岩に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。岩盤の開口部や墓の前面部は樹根の影響で岩の亀裂や墓室を閉塞していたとみられる石積みが壊れていた。他の遺構と比較して墓室の構造は

開口部から横に深く掘り込まれ、床面は半円形上に形成されていた。

墓前の約1m斜面下にある平坦地からコバルト釉掛け家形甕子の底部の破片が確認できたが、当遺構との関係については不明である。

悉皆分布調査では、当遺構から南東方に切土された平坦な地形に沿って多数の墓遺構が並ぶように確認されている。

表4.26. T03号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	N14
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	北西
規模	(墓口) 幅1.10m/高さ0.62m (墓室) 幅—/高さ—/奥行— (墓庭) 幅1.05m/長さ0.65m		
遺物	(墓室内) — (墓室外) 施釉陶器製家形甕子		



写真4.24. T03号墓

057. 踏査確認時遠景
059. T03号墓 遠景

058. T03号墓 墓室内状況
060. 遺物散布状況

T06号墓

T06号墓は、琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約10m）に位置し、周囲からは見えにくい奥まった場所に立地する。

当遺構は、直立した石灰岩に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓の前面部は岩盤の開口部の縁に沿って、シミイシ（門柱）、ジョウカブイ（門被）、スデイシ（袖石）の切石から構成される。切石と切石の接地面や開口部（岩盤）には漆喰が確認できた。

蓋石は半壊し、墓室側に倒れた状態で確認できた。

墓室内はドーム状に構築されていた。また、墓室の奥壁と両側壁には蔵骨器等を安置するタナ（棚）が一段設けられていた。

墓前には土砂が堆積しているため墓全体の規模については確認できていない。また、遺骨や蔵骨器などの遺物も確認はできていない。築造年代についても情報が少ないため不明である。

表4.27. T06号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	N14
立地	琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	北東
規模	(墓口) 幅0.62m/高さ0.60m (墓室) 幅一/高さ一/奥行一 (墓庭) 幅2.55m/長さ2.20m		
遺物	(墓室内) ー (墓室外) ー		



写真4.25. T06号墓



061. T06号墓 遠景
062. T06号墓 近景

T20号墓

T20号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面（標高約5m）に位置する。宮城原地区では比較的低い場所で確認した遺構であった。

当遺構は、直立した石灰岩に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓口の開口部は長方形を呈し、幅1m、高さ0.6mを測る。岩盤の表面は滑らかに整形され

ていた。墓室は比較的小く、蔵骨器を安置するには1基又は2基までのスペースしかなかった。

当墓については、平成25年度の国道329号線金武バイパスに伴う遺跡発掘調査時に確認された遺構であったが発掘調査の対象外であった。当時の記録では「墓室は奥行きが狭小であるため造墓途中の痕跡である可能性が考えられる」と報告されている。

表4.28. T 20号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	M13
立地	露頭する琉球石灰岩台地の段丘斜面	墓口の向き	東
規模	(墓口) 幅1.08m/高さ0.63m (墓室) 幅一/高さ一/奥行一 (墓庭) 幅2.70m/長さ0.83m		
遺物	(墓室内) 一 (墓室外) 厨子窯破片		



写真4.26. T 20号墓

063. T20号墓 発見時
064. T20号墓 近景

T 34号墓

T34号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近（標高約13m）に位置し、億首川を見渡すことができる場所に立地する。

当遺構は、他の地域と比べて脆い石灰岩の崖面に横穴を掘り込んで墓室を構築した掘込墓（古墳）であり、空墓の状態を確認された。墓の開口部は幅5.2m、高さ2.1m、奥行き2.1mと確認された墓遺構のなかでは規模が最も大きく大型の掘込墓であつ

た。墓室内の四方壁面には築造時についたとみるノミ跡が明瞭に残っていた。また、墓室の床面は平坦に整えられており、墓前から一段低く造られていた。蔵骨器などの遺物も確認はできていないが、墓室内には少量の骨片が散乱している状況であった。

悉皆分布調査では、当遺構から北西側にT33号墓、南側にT35号墓が確認されている。

表4.29. T 34号墓 遺構観察表

古墓の分類	掘込墓	古墓の位置（グリッド）	M11
立地	露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近	墓口の向き	北東
規模	(墓口) 幅5.20m/高さ2.10m (墓室) 幅一/高さ一/奥行2.80m (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) 磁器・骨 (墓室外) 一		



写真4.27. T34号墓



065. T34号墓 近景
066. T34号墓 墓室側壁（ノミ痕）

T36号墓

T36号墓は、露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近の崖地（標高約15m）に位置し、億首川を見渡すことができる場所に立地する。

当遺構は、他の地域と比べて脆い石灰岩の岩陰をさらに横穴を掘り込んで墓室を構築した岩陰掘込墓（古墓）であり、空墓の状態を確認された。墓室を閉塞する石積み等は確認されていない。墓室内の四方壁面には築造時についたとみるノミ跡が明瞭に残

っていた。また、墓室の床面は平坦に整えた造りになっていた。遺骨や蔵骨器などの遺物は確認できていない。

墓前には地形に沿って道が設けられており、この道と平行するように崖面には多数の墓遺構が築造されていた。なかには現在も使用されている墓もみられた。

表4.30. T36号墓 遺構観察表

古墓の分類	岩陰掘込墓	古墓の位置（グリッド）	L11
立地	露頭する琉球石灰岩台地の縁辺部付近の崖地	墓口の向き	北
規模	(墓口) 幅1.65m/高さ1.12m (墓室) 幅一/高さ一/奥行一 (墓庭) 幅一/長さ一		
遺物	(墓室内) 一	(墓室外) 一	



写真4.28. T36号墓



067. T36号墓 近景
068. T36号墓 奥壁・天井部

表4.31. 田慶志原地区 遺構一覧表(1)

遺構 番号 (図面番号)	グリ ッド	遺構 種類	判断 基準	土層 分類	遺構全長 幅(m)	基 礎 方	遺構寸法 幅(m)	取 扱 要 素	考 察 要 素
T01号遺 (17062)	O14	土層	△	不明	X=50933.661 Y=43338.297 標高=15.976	コン クリ	(幅み)幅0.70m/高さ0.55m	石灰岩岩盤の隙みを利用した墓の可能性あり。地 盤面で隙みを確認したが、大部分が埋没し詳細不 明。	
T02号遺 (17068)	O14	土層	△	不明	X=50933.352 Y=43339.573 標高=15.995	コン クリ	(幅み)幅0.60m/高さ0.15m	石灰岩岩盤の隙みを利用した墓の可能性あり。地 盤面で隙みを確認したが、大部分が埋没し詳細不 明。	
T03号遺 (17065)	N14	土層	○	浮込墓	X=50931.328 Y=43361.990 標高=10.936	コン クリ	(幅み)幅1.10m/高さ0.62m (幅み)幅1.05m/長さ0.65m	石灰岩を張り込んだ浮込墓。下層は自然石を積み 上げ墓石を形成。墓石を有す。墓工匠の石組みが 特殊な形が見える。墓前面で陶器類や土師器の 破片を散見。墓前面の斜面に通常の痕跡を有す。	P55
T04号遺 (17064)	N14	土層	○	浮込墓	X=50930.410 Y=43365.761 標高=10.446	コン クリ	(幅み)幅0.87m/高さ0.57m (幅み)幅1.65m/長さ1.30m	石灰岩岩盤を張り込んだ浮込墓。墓下層は樹板に より覆われ、石灰石・土砂で埋没し詳細不明。墓 室内床面は台形状。天井部は平面的である。墓前 面に陶器類の破片が散見。	
T05号遺 (17063)	N14	土層	△	不明	X=50927.201 Y=43370.340 標高=11.321	コン クリ	(幅み)幅1.00m/高さ0.18m	石灰岩の隙みを利用した墓の可能性あり。地盤面 で隙みを確認したが大部分が埋没し詳細不明。	
T06号遺 (17061)	N14	土層	○	浮込墓	X=50926.334 Y=43471.848 標高=10.709	コン クリ	(幅み)幅0.62m/高さ0.60m (幅み)幅2.25m/長さ2.20m	石灰岩を張り込んだ浮込墓。墓下層は切り石を積 み上げ、土を構築。土には瓦を有するが、 墓石は半壊。墓室内は土の字の「タナ」を1 段隆起。墓前面は隆起。	P56
T07号遺 (17062)	N14	土層	△	不明	X=50924.653 Y=43373.446 標高=11.355	コン クリ	(幅み)幅0.94m/高さ0.80m	石灰岩岩盤の隙みを利用した墓の可能性あり。地 盤面で隙みを確認したが、大部分が埋没し詳細不 明。	
T08号遺 (17056)	N14	土層	○	岩陰墓	X=50920.815 Y=43377.299 標高=9.578	コン クリ	(幅み)幅1.55m/高さ0.68m	石灰岩の隙みを利用した岩陰墓の可能性あり。地 盤面で見つかる土師器や土師器の破片を散見。陶器の 前面に平直な面を有す。	
T09号遺 (17055)	N13	土層	○	岩陰墓	X=50919.245 Y=43378.156 標高=10.103	コン クリ	(幅み)幅1.60m/高さ0.80m	石灰岩岩盤の隙みを利用した岩陰墓の可能性あり。 岩盤の隙みに詳細不明を確認。	
T10号遺 (17054)	M13	土層	△	不明	X=50910.586 Y=43383.982 標高=9.577	コン クリ	(幅み)幅1.40m/高さ0.65m	石灰岩岩盤の隙みを利用した墓の可能性あり。地 盤面で隙みを確認したが、大部分が埋没し詳細不 明。T10号墓、T11号墓の間に墓道の可能性がある 斜面を隆起。	
T11号遺 (17053)	M13	土層	△	不明	X=50908.268 Y=43385.766 標高=9.080	コン クリ	(幅み)幅1.40m/高さ0.87m	石灰岩岩盤の隙みを利用した墓の可能性あり。正 面に散見した石が埋没し詳細不明。T10号墓、T11 号墓の間に墓道の可能性がある斜面を隆起。	
T12号遺 (17052)	M13	土層	△	不明	X=50903.188 Y=43385.407 標高=10.271	土 層	(幅み)幅0.75m/高さ0.65m	石灰岩岩盤の隙みを利用した墓の可能性あり。地 盤面で見つかる隙みを確認したが、大部分が埋没し詳細不 明。	
T13号遺 (17047)	M13	土層	△	不明	X=50902.618 Y=43380.069 標高=8.465	土 層	(幅み)幅1.88m/高さ1.15m	石灰岩岩盤の隙みを利用した墓の可能性あり。地 盤の大部分が埋没し詳細不明。	
T14号遺 (17046)	M13	土層	△	不明	X=50898.929 Y=43388.586 標高=9.047	土 層	(幅み)幅0.70m/高さ0.38m	石灰岩岩盤の隙みを利用した墓の可能性あり。大部 分が埋没し詳細不明。	
T15号遺 (17045)	M13	土層	○	岩陰墓	X=50899.443 Y=43386.385 標高=10.797	土 層	(幅み)幅0.90m/高さ0.51m	石灰岩岩盤の隙みを利用した岩陰墓の可能性あり。 陶器類の破片を散見。	
T16号遺 (17044)	M13	土層	○	岩陰墓	X=50896.861 Y=43387.008 標高=10.360	土 層	(幅み)幅1.62m/高さ1.05m	石灰岩岩盤の隙みを利用した岩陰墓の可能性あり。 陶器類の破片を散見。	
T17号遺 (17043)	M13	土層	○	岩陰墓	X=50894.340 Y=43386.931 標高=10.636	土 層	(幅み)幅1.30m/高さ1.18m	石灰岩岩盤の隙みを利用した岩陰墓の可能性あり。 陶器類の破片を散見。	

*1 古土層判断基準例 ○：人為的痕跡を確認した古土層 ○：人為的痕跡を確認できなかった古土層 △：古土層が埋没または埋没している可能性がある斜面の隙み

*2 備考欄で使用する「右」「左」は墓正面に向き合った方向である。

表4.3.2. 田慶志原地区 遺構一覧表(2)

遺構 番号 (調査地)	グリ ッド	遺構 種類	形状 基準	土層 分類	遺構座標 標高-m	基 礎 方 向	遺構寸法 標高-m	説 明 説 明	発 見 者
T18号遺 (17042)	M13	土層	○	岩盤基	X=50891.861 Y=43386.799 標高=10.690	東	(幅) 1.50m/高さ0.39m (長さ) 2.39m/奥行0.55m	石灰岩地盤の窪みを利用した土層間の可成りあり。土層は埋没し詳細不明。土層前面に平坦面を有す。	
T19号遺 (17048)	M13	土層	△	不明	X=50887.427 Y=43403.487 標高=5.239	北東	(幅み) 幅2.90m/高さ1.50m	石灰岩地盤の窪みを利用した土層の可成りあり。土層の大部分が崩壊し、土層の位置の可能性ある部分を確認。	
T20号遺 (17049)	M13	土層	◎	岩盤基	X=50883.687 Y=43403.487 標高=4.810	東	(幅) 1.08m/高さ0.63m (長さ) 2.70m/長さ0.83m	H25年度調査時の01号基。石灰岩地盤を掘り込んだ形跡。土層内は埋没し詳細不明。基床直は長方形を呈するとされる。土層の形状を特定。	P66
T21号遺 (17040)	M13	土層	△	不明	X=50881.451 Y=43392.148 標高=10.635	北	(幅み) 幅2.65m/高さ1.10m	石灰岩地盤の窪みを利用した土層の可成りあり。土層面で窪みを確認したが、大部分が埋没し詳細不明。	
T22号遺 (17153)	M12	土層	△	不明	X=50876.388 Y=43391.589 標高=15.221	北東	(幅み) 幅2.00m/高さ0.55m	石灰岩地盤の窪みを利用した土層の可成りあり。土層前面は掘削工事により見下された可能性あり。	
T23号遺 (17152)	M12	土層	△	不明	X=50858.667 Y=43398.029 標高=19.088	東	(幅み) 幅1.56m/高さ0.50m	石灰岩の窪みを利用した土層の可成りあり。大部分が埋没し詳細不明。	
T24号遺 (17159)	M12	土層	△	不明	X=50852.411 Y=43397.807 標高=20.401	北東	(幅み) 幅1.15m/高さ0.48m	石灰岩の窪みを利用した土層の可成りあり。土層内は埋没し詳細不明。	
T25号遺 (17158)	M12	土層	○	岩盤基	X=50851.192 Y=43399.899 標高=18.108	北東	(幅) 1.04m/高さ0.56m	石灰岩と土層の窪みを利用した土層間の可成りあり。土層は掘削工事により見下された可成りあり。土層の一部が崩壊。土層内は平坦面を有す。	
T26号遺 (17039)	M12	土層	◎	岩盤基	X=50847.786 Y=43400.260 標高=18.243	東	(幅) 1.037m/高さ0.91m (長さ) 2.15m/長さ1.63m	石灰岩と土層の窪みを利用した土層間の可成りあり。土層内は自然石を積み上げて土層を構築。土層は厚石で高く。土層内は詳細不明。土層の形状を特定。	
T27号遺 (17038)	M12	土層	◎	岩盤基	X=50842.287 Y=43403.073 標高=16.210	東	(幅) 幅1.45m/高さ0.49m (長さ) 幅1.20m/長さ1.52m	石灰岩地盤の窪みを利用した土層間の可成りあり。土層内はコンクリートブロックを積み上げて土層を構築。土層はコンクリートブロックで造られ、土層内は詳細不明。土層の形状を特定。	
T28号遺 (17037)	M11	土層	◎	岩盤基	X=50838.792 Y=43405.801 標高=15.120	北東	(幅) 幅0.64m/高さ1.05m (長さ) 幅3.64m/長さ0.92m	石灰岩地盤を掘り込んだ形跡。土層内は自然石を積み上げ、モルタルで覆う。土層は土層で高く。土層内は詳細不明。土層の形状を特定。	
T29号遺 (17160)	M11	土層	◎	岩盤基	X=50832.975 Y=43409.333 標高=14.181	北東	(幅) 幅0.54m/高さ0.46m	石灰岩の窪みを利用した土層間の可成りあり。土層内は自然石を積み上げ、土層も自然石で覆う。土層内は詳細不明。T31・T30号基から繋がる土層にそれぞれの土層の形状を有する事から、土層内に別々の土層を掘り込んだ土層間の可成りあり。	
T30号遺 (17036)	M11	土層	◎	岩盤基	X=50831.781 Y=43409.841 標高=14.353	北東	(幅) 幅0.62m/高さ1.23m (長さ) 幅0.80m/長さ1.27m	石灰岩地盤を掘り込んだ形跡。土層内は自然石を積み上げて土層を構築。土層内は土層で高く。土層内の土層には不明。土層の形状を特定。	
T31号遺 (17035)	M11	土層	◎	岩盤基	X=50829.882 Y=43411.007 標高=14.650	北東	(幅) 幅0.74m/高さ0.35m (長さ) 幅2.20m/長さ0.97m	石灰岩地盤を掘り込んだ形跡。土層内は自然石を積み上げ土層を構築。土層上層の土層が崩壊し、土層内は詳細不明。T31号基～T29号基に繋がる土層にそれぞれの土層を有する事から、土層内を別々の土層に掘り込んだ土層間の可成りあり。	
T32号遺 (17034)	M11	土層	◎	岩盤基	X=50826.649 Y=43412.370 標高=13.671	北東	(幅) 幅0.54m/高さ1.88m (長さ) 幅1.87m/長さ2.16m	石灰岩地盤を掘り込んだ形跡。土層内は土層を積み上げて土層を構築。土層内は土層で高く。土層内は詳細不明。土層の形状を特定して記録。	

*1 古基判断基準凡例 ○：人為的痕跡を確認した古基 ◎：人為的痕跡を確認できなかった古基 △：古基が崩壊または埋没している可能性がある斜地間の窪み
*2 備考欄で使用する「右」「左」は基正面に向き合った方向である。

表4.3.3. 田慶志原地区 遺構一覧表(3)

遺構番号 (発見番号)	グリッド	遺構種類	土層 基盤	土層 分類	遺構座標 (標高-m)	遺構 方向	遺構寸法 (標高-m)	調査概要	備考
T33号遺構 (17033)	M11	土層	○	浮込土	X=50824.997 Y=43413.948 標高=13.941	北東	(幅) X幅0.68m/高さ1.00m (長さ) Y長さ3.10m/長さ1.32m	石灰石を盛り込んだ粘土層。墓口は石製を 順に整形し、蓋(石)を埋める。蓋(石)は青石ででき、蓋 室内は砂利入り。蓋(石)面にサンミデーを施す。	
T34号遺構 (17032)	M11	土層	○	浮込土	X=50820.645 Y=43417.615 標高=13.969	北東	(幅) Y幅5.20m/高さ2.10m (長さ) X長さ2.80m	石灰石を盛り込んだ大形の浮込土。蓋(石)は石製 形状、天井は平石である。蓋室内は1層に修 形して造られ、蓋室内でノミを施す。蓋室内 に骨片が数点散見。	P67
T35号遺構 (17157)	M11	土層	△	不明	X=50816.239 Y=43418.056 標高=15.340	南東	(幅) Y幅1.55m/高さ0.98m	石灰石の石を利した蓋の可能性がある。大部分 が埋没し詳細不明。	
T36号遺構 (17156)	L11	土層	○	石層 浮込土	X=50813.163 Y=43420.235 標高=15.563	北	(幅) X幅1.65m/高さ1.12m	石灰石の石を利した蓋の可能性がある。蓋(石)は石製 形状、天井は平石である。	P68
T37号遺構 (17028)	K10	土層	△	不明	X=50769.418 Y=43491.382 標高=4.351	北東	(幅) Y幅5.20m/高さ1.80m	露出した石灰石を利用した蓋の可能性がある。斜面 地で遺構を築く。大部分が埋没し詳細不明。	
T38号遺構 (17027)	J9	土層	△	不明	X=50757.309 Y=43501.793 標高=4.246	北東	(幅) Y幅1.20m/高さ0.65m	斜面に露出した石灰石の石を利用した蓋の可 能性がある。大部分が埋没し詳細不明。	
T39号遺構 (17026)	J9	土層	△	不明	X=50753.715 Y=43501.253 標高=5.771	北東	(幅) Y幅0.70m/高さ0.35m	斜面に露出した石灰石の石を利用した蓋の可 能性あり。石灰石の石を利した蓋の可能性がある。大部分が埋没し 詳細不明。	
T40号遺構 (17025)	J9	土層	△	不明	X=50748.853 Y=43503.965 標高=5.613	北東	(幅) Y幅0.85m/高さ0.40m	斜面に露出した石灰石の石を利用した蓋の可 能性あり。大部分が埋没し詳細不明。	
T41号遺構 (17023)	J9	土層	△	不明	X=50727.421 Y=43523.611 標高=4.170	—	(幅) Y幅0.35m/高さ1.30m	石灰石の石を利用した蓋の可能性がある。大部分が 埋没し詳細不明。	
T42号遺構 (17029)	J8	土層	△	不明	X=50718.438 Y=43518.583 標高=9.319	北東	(幅) Y幅0.95m/高さ0.22m	石灰石の石を利用した蓋の可能性がある。大部分が 埋没し詳細不明。	
T43号遺構 (17151)	O14	石積み	—	—	X=50930.753 Y=43521.471 標高=21.500	—	(長さ) Y長さ3.40m	斜面に建てられた石積みの石積み。石積みは 南西から北東にかけて残り、6~7段積み上げて 構築。段(石)は土砂が堆積し平坦となる。石灰 石の石積みは崩壊し石が散見。	
T44号遺構 (17024)	J9	石積み	—	—	X=50738.033 Y=43515.881 標高=4.300	—	(石積みの長さ) 長さ4.60m	斜面に建てられた石積みの石積み。石積みは北 西から南東にかけて残り、2~3段積み上げて 構築。段(石)は土砂が堆積し平坦となる。石灰 石の石積みは崩壊し石が散見。	
T45号遺構 (17030)	J8	石積み	—	—	X=50707.904 Y=43524.570 標高=10.000	—	(石積みの長さ) 長さ2.15m	斜面に建てられた石積みの石積み。石積みは北 西から南東にかけて残り、4段積み上げて 構築。段(石)は土砂が堆積し平坦となる。石灰 石の石積みは崩壊し石が散見。	
T46号遺構 (17167)	N14	不明	—	—	X=50937.283 Y=43378.511 標高=3.819	—	(幅) Y幅1.70m/高さ1.30m	斜面に建てられた石積みの石積み。石積みは北 西から南東にかけて残り、2~3段積み上げて 構築。段(石)は土砂が堆積し平坦となる。石灰 石の石積みは崩壊し石が散見。	